

やみならん。いかにぞ、天の鈿女の命、かく、ゑらぎ（日本書紀に「歡喜咲樂」と書いて「ゑらぎあそぶと読ませている）するやと、おぼして、御手をもて、ほそめ（細目）にあけて、み給。

この時に、天手力雄（あめのたちからを）の命と云神（思兼の神の子）磐戸（いはと）のわきに立（たち）給しが、其戸を、ひきあ（開）けて、新殿（にひどの）に、うつしたてまつる。

中臣（なかとみ）の神（天児屋命なり）忌部（いむべ）の神（天の太玉の命也）しりくへなはを

（日本紀には端出之繩とかけり。注には左（ひだり）縄の端（はし）出（いだ）せると云（い）ふ。古語拾遺には日御繩（ひのみなは）とかく。これ日影（ひかげ）の像（かたち）なりといふ）

ひきめぐらして「な、かへりましそ」と申。

上天（しやうてん）はじめて、はれて、もろもろ、ともに相見（あひみる）。面（おもて）みな、あきらかにしろし。手をのべて歌舞（うたひまひ）て

「あ、はれ（天のあきらかなるなり）。あな、おもしろ（古語に甚（いと）切（せち）なるを、みな、あなと云（い）ふ。面白（おもしろ）、もろもろのおもて明（あきらか）に白き也）。あな、たのし。あな、さやけ（竹の葉のこゑ）。おけ（木の名也。其（その）はを、ふるこゑ也。天の鈿目の持給へる手草也）」といふ。

かくて、つみを、素戔鳥の尊によせて、おほする（科する）に、千座（ちくら）の置戸（をきど）をもて、首（かうべ）のかみ、手足のつめをぬきて、あがなはしめ、其罪を、はらひて、神やらひにやはられ（追放され）き。

かの尊（素戔鳥の尊）天（あめ）よりくだりて、出雲（いづも）の簸（ひ）の川上（かはかみ）と云所にいたり給。

其所（そのところ）に、一（ひとり）のおきなと、うばとあり。一（ひとり）のをとめを、すゑて、かきなでつゝ、なきけり。

素戔鳥尊「たぞ」と、とひ給ふ。「われは、これ、国神（くにつかみ）也。脚摩乳（あしなつち）手摩乳（てなつち）と云（い）ふ。

このをとめはわが子なり。奇稻田姫（くしいなだひめ）と云ふ。

さきに八人（やたり）の少女（をとめ）あり。としごとに、八岐の大蛇（をろち）のためにのまれき。今、此をとめ、又、のまれなんとす」と申ければ、尊「我にくれんや」との給。

「勅（みことのり）のまゝにたてまつる」と申ければ、此をとめを、湯津（ゆつ）つまぐしにとりなし、みづらにさし、やしほをりの酒を八（やつ）の槽（ふね）にもりて、待（まち）給に、はたしてかの大蛇きたれり。

頭(かしら)、おのおの一(ひとつ)の槽(ふね)に入(れ)て、のみゑひ(飲み酔ひ)てねぶりけるを、尊、「はかせる十握の剣をぬきて、づだづたに、きりつ。尾にいたりて、剣の刃(は)すこしかけぬ。

さきて、み給へば、一(ひとつ)の剣あり。その上に、雲氣(うんぎ)ありければ、天の叢雲(むらくも)の剣と名(なづ)く(日本武(やまとたける)の尊にいたりて、あらためて、草なぎの剣と云(い)ふ。それより熱田社(あつたのやしろ)にます)。

「これ、あやしき剣(つるぎ)なり。われ、なぞ、あへて私におけらんや」との給て、天照太神にたてまつり上(あげ)られにけり。

其のち、出雲の清(すが)の地にいたり、宮をたてて、稲田姫とすみ給。大己貴(あなむち)の神を(大汝(おほなむち)とも云)うましめて、素戔嗚尊はつひに根の国にいでましぬ。

大汝の神、此国にとゞまりて(今の出雲の大神にます)天下(あめのした)を經營(けいえい)し、葦原(あしはら)の地を領(りやう)し給けり。

よりにて、これを大国主の神とも、大物主(おほものぬし)とも申。その幸魂・奇魂は、大和の三輪(みわ)の神にます。

第二代、正哉吾勝々速日天忍穗耳尊、高皇産靈の尊の女(むすめ)栲幡千千姫(たくはたちぢひめ)の命にあひて、饒速日尊・瓊々杵尊をうましめ給て、吾勝尊、葦原中州にくだりますべかりしを、御子、うみ給しかば「かれを下すべし」と申給て、天上にとゞまります。

まづ、饒速日の尊をくだし給し時、外祖・高皇産靈尊、十種(とくさ)の瑞宝(みづたから)を授(さづけ)給。

瀛都(をきつ)鏡一(ひとつ)、辺津鏡一、八握劍一、生玉(いくたま)一、死反(しにかへりの)玉一、足玉(たるたま)一、道反(ちがへしの)玉一、蛇比礼(へみのひれ)一、蜂(はちの)比礼一、品々(くさぐさ)の物(の)比礼一、これなり。

此みこと、はやく神さり給にけり。凡(およそ)、国の主(あるじ)とては、くだし給はざりしにや。

吾勝尊、くだり給(たまふ)べかりし時、天照太神、三種(さんしゆ)の神器を伝(つた)へ給。

のちに、又、瓊々杵尊にも授(さづけ)ましましに、饒速日尊は、これを、え給はず。しかれば、日嗣の神にはましまさぬなるべし(此事、旧事本紀の説也。日本紀にはみえず)。

天照太神・吾勝尊は、天上に止(とどま)り給へど、地神(ちしん)の第一、二にかぞへたてまつる。

其始(はじめ)天下(あめのした)の主(あるじ)たるべしとて、うまれ給しゆゑにや。